

第4章 表示基準

4-1 ピクトグラムと矢印

ピクトグラムは、一見してその表現内容を理解できることから、母国語の表記がない外国人などにも優れた情報提供の手段として有効である。

<整備の際のポイント>

- ・案内用図記号（JIS Z 8210）および標準案内用図記号^{*1}を標準的に使用する。
- ・^{*1}:2001年3月に交通エコロジー・モビリティ財団により策定され、その中からJIS案内用図記号が選出された。
- ・地図記号またはJISに制定されていない新たなピクトグラムが必要な場合は、JISのイメージを尊重したデザインで新規に作成する。
- ・図記号の色彩は基本的に自由であるが、JISの安全色を用いる（安全色が規定している意味を用いる場合）、「身障者用設備」は青または黒、男女を識別する（慣例色として男女を分けるなどは可）、十分な明度差をとることに留意する必要がある。

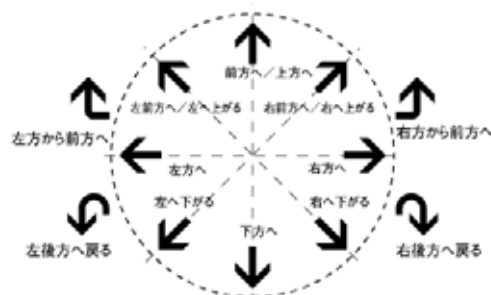


○矢印は、誘導サインで方向を示す場合に表示する。

<整備の際のポイント>

- ・進行方向に合わせて選択する。
- ・必要に応じて、文字による補助表示を添える。

・進行方向による選択



・補助表示を組み合わせた表現



4-2 書体

書体は、道路の移動等円滑化整備ガイドラインや公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン他の上位基準等で指定されている書体を用いることを基本とする。本計画では、和英文字ともに視認性と可読性に優れた角ゴシック書体を使用する。

- ・太字：白地に黒文字の場合に使用する。
- ・細字：色地にヌキ文字の場合および案内図や説明などに使用する。

<整備の際のポイント>

- ・和文字は、読みやすさと美しさのために、長文など表示面に納まらない場合を除き、縦100%×横110%の平体を標準とする。
- ・英文字は文字固有のバランスをくずさないために、縦100%×横100%の正体を標準とする。
- ・和文字、英文字とも読みやすくするために、文字間を標準よりも広めに調整する。
- ・ひらがなのルビは、必要に応じて表記することができる。
- ・ひらがなのルビは、わかりやすさを基本に、適宜、文節に合わせた「わかち書き」にする。

・文字の変形



・和文字書体の例

(太字) モリサワ新ゴB 平体1 文字間(トラッキング) +50

ちょうふし こども はったつ せんたー
調布市 子ども発達センター

(細字) モリサワ新ゴM 平体1 文字間(トラッキング) +50

ちょうふし こども はったつ せんたー
調布市 子ども発達センター

・英文字、数字書体の例

(太字) Frutiger LT Pro 65 Bold 正体 文字間(トラッキング) +10

Chōfu City Tobitakyū
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789

(細字) Frutiger LT Pro 55 Roman 正体 文字間(トラッキング) +10

Chōfu City Tobitakyū
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789

4-3 文字の大きさ

遠距離から視認する文字の大きさは、公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドラインをもとに、日本語の見やすさ、ひらがなと英語を組み合わせたときのバランスを考慮して、視認距離との関係から設定する。

<大きさの目安>

- ・遠くから視認する吊下型等の誘導サインや位置サイン等は 20m 以上、近くから視認する自立型や壁付型等の案内サイン等は 4～5m 以下に視距離を設定することが一般的である。
- ・下表は、前記の想定のもとに各々の視距離から判読できるように通常有効な文字の大きさを示す。

視認距離	和文字	英文字
30m	120 mm 以上	90 mm 以上
20m	80 mm 以上	60 mm 以上
10m	40 mm 以上	30 mm 以上
4m～5m	20 mm 以上	15 mm 以上

・視認距離：20～30m

120
24
60
調布市
Chōfu City

・視認距離：10m～20m

36
15
90
18
45
ちょうふし
調布市
Chōfu City

・視認距離：5m～10m

20
8
50
10
25
ちょうふし
調布市
Chōfu City

・視認距離：4m～5m

13
6
13
6
ちょうふし
調布市
Chōfu City

（縮尺：1/5 単位：mm）

4-4 レイアウト

サインは、全体的なレイアウトの統一が必要である。設置箇所や表示面の大きさ等によりデザインが個々に異なってくるが、レイアウト上の見やすさ等を踏まえ、以下の考え方を基に設定した。

<整備の際のポイント>

- ・文字は和文、英文左頭合わせの2列組にする。ただし、タイトルのように横長の場合は和文と英文を1列に並べる。案内図中の文字は左頭合わせが基本であるが、文字と目的物が近くなるよう、右合わせや1列組を適宜選択する。
- ・ひらがなのルビは和文の上につける。
- ・ピクトグラムは文字組の左側に表示する。
- ・矢印は文字列の先頭にレイアウトする。
- ・矢印と文字の関係は、基本は1情報の誘導に1矢印の対（つい）が望ましいが、同方向に複数の施設を誘導する場合は、視認性を重視してグループの上部に、左揃えで矢印をレイアウトする。
- ・情報量は、可読性の点から全体で4~6情報に収めることを推奨する。

・一列組の例



・左頭合わせの例



・左右誘導混在の例



4-5 色彩

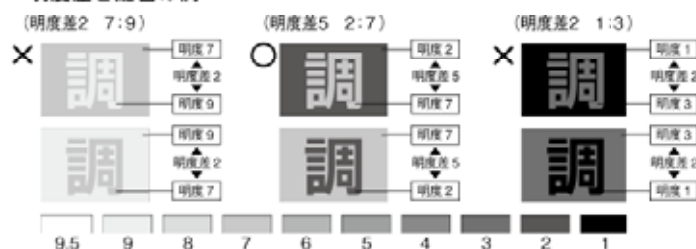
公共サインでは、耐久性と共に、高齢化、色覚障害などの特性に配慮した色彩計画が必要である。また、道路の移動等円滑化整備ガイドライン他を踏まえ、以下のような考え方にに基づき、整備の際のポイントを示す。

- ・ 高齢化に伴う黄変化について、一般的な老化現象の一つである老人性白内障は、薄暗いところでもものが見えにくい、かすんで見えるなどの特徴があるといわれている。
- ・ 色覚障害とは、人の目の網膜にある赤、緑、青の3種類の色を認識する細胞のうち、どれかに変異を生じた状態を指す。赤と緑の区別が付きにくいなどの色の誤認が生じる可能性がある。

<整備の際のポイント>

- ・ 退色性を考慮した色彩、材料を選ぶ。
- ・ 薄暗いところでも見やすいように大きくはっきりした表示を心がける。
- ・ 背景色と文字色に、なるべく5以上の明度差をつける。

・ 明度差と配色の例



・ 色の見え方の例

	一般色覚	1型色覚	2型色覚
赤			
ピンク			
オレンジ			
黄色			
黄緑			
緑			
青			
紫			



- ・黒地に青色または赤色を用いる組み合わせは、その部分が黒くみえてしまい認識できない場合があるので、水色に近い青やオレンジに近い赤を用いるようにする。



- ・赤系統と緑系統の色の直接の組み合わせは避けるようにする。



- ・黄地に白色またはその逆の組み合わせは避けるようにする。



- ・地色が薄い場合は黒、地色が濃い場合は白で表示すると視認しやすくなる。



- ・案内図などで弁別しにくい色を並べる際には、黒や白線で輪郭を取り、区分する。



4-6 表記方法

表記方法については、道路の移動等円滑化整備ガイドライン他に基づき、以下のように設定した。

○サインへの表記は、日本語、ひらがなのルビ、そして英語の3種類を基本とする。

- ・日本語（和文）：漢字は常用漢字を使用する。ただし、固有名称についてはこの限りではない。
- ・ひらがなのルビ：矢印で誘導する施設と案内図の市・区・町名、鉄道駅名を示す漢字、カタカナにルビをつける。
- ・英語（英文）またはローマ字：アルファベットによる表記を行う。数字表示は算用数字を使用する。
- ・地域の必要性に応じて、他の言語を表記することができる。

○英語（英文）またはローマ字の表記方法

- ・つづりは、単語の最初の文字を大文字、他は小文字にする。ただし前置詞 for などはずべて小文字を使用する。
- ・ローマ字綴りは、固有名詞についてはヘボン式（下表）、普通名詞については、英語表記とする。
- ・長音は母音の上に長音記号を付ける。

例：Ō ō Ū ū

- ・はねる音は「b」「m」「p」の前は「m」、その他は「n」とする。
- ・長い単語や接頭語を伴う場合などは、ハイフンを挿入する。

・ローマ字の表記方法（ヘボン式）

あ	い	う	え	お	a	i	u	e	o
か	き	く	け	こ	ka	ki	ku	ke	ko
さ	し	す	せ	そ	sa	shi	su	se	so
た	ち	つ	て	と	ta	chi	tsu	te	to
な	に	ぬ	ね	の	na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ	ha	hi	fu	he	ho
ま	み	む	め	も	ma	mi	mu	me	mo
や	—	ゆ	—	よ	ya	—	yu	—	yo
ら	り	る	れ	ろ	ra	ri	ru	re	ro
わ	—	—	—	—	wa	—	—	—	—
ん	—	—	—	—	n	—	—	—	—
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ga	gi	gu	ge	go
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	za	ji	zu	ze	zo
だ	ぢ	づ	で	ど	da	ji	zu	de	do
ば	び	ぶ	べ	ぼ	ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	pa	pi	pu	pe	po
きゃ	—	きゅ	—	きょ	kya	—	kyu	—	kyo
しゃ	—	しゅ	—	しょ	sha	—	shu	—	sho
にゃ	—	にゅ	—	にょ	nya	—	nyu	—	nyo
ひゃ	—	ひゅ	—	ひょ	hya	—	hyu	—	hyo
りゃ	—	りゅ	—	りょ	rya	—	ryu	—	ryo
ぎゃ	—	ぎゅ	—	ぎょ	gya	—	gyu	—	gyo
じゃ	—	じゅ	—	じょ	ja	—	ju	—	jo
ぢゃ	—	ぢゅ	—	ぢょ	ja	—	ju	—	jo
ちゃ	—	ちゅ	—	ちょ	cha	—	chu	—	cho
びゃ	—	びゅ	—	びょ	bya	—	byu	—	byo
ぴゃ	—	ぴゅ	—	ぴょ	pya	—	pyu	—	pyo

4-7 案内図・凡例

案内図は、道路の移動円滑化整備ガイドラインや地図を用いた道路案内標識ガイドブック他から、視認距離の関係や可読性等を踏まえ以下のように設定した。

○案内図は、広域と周辺の2種を標準とし必要に応じて更に詳細の案内図を整備する。

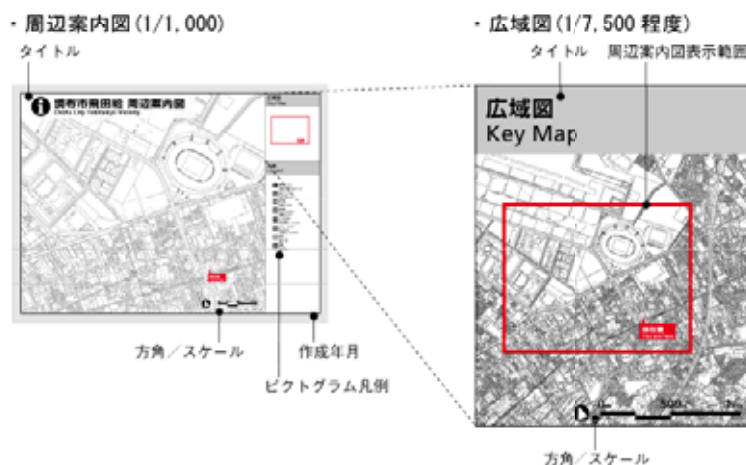
- ・広域案内図：概ね 1/2,500、3km 四方程度の歩行範囲を表示
- ・周辺案内図：概ね 1/1,000、1km 四方程度の歩行範囲を表示

○案内図には、表示する図の他に次のものを記入する。

タイトル／方位／スケール／作成年月／広域図（1/7,500 程度）／ピクトグラム凡例（図中に同様の施設が複数ある場合は一般名称、1 件だけの場合は固有名称を記入）

<整備の際のポイント>

- ・タイトルは広域案内図、周辺案内図それぞれの左上部に位置と文字の大きさを揃えて表示する。
- ・方位およびスケールは広域案内図、周辺案内図それぞれの四隅のいずれかに表示する。
- ・作成年月は、地図に示した情報が、いつの時点のものであるかわかるように、画面右下部の確認できる位置に小さく表示する。



- ・ピクトグラム凡例は、案内図の右側に、図中で使用したピクトグラムをまとめて表示する。
- ・言語表記は、日本語・英語・中国語・韓国語表記を基本とする。また、必要に応じてひらがなを記載する。
- ・凡例のサイズは以下を標準とする。

・凡例の一例



・凡例の標準レイアウト例



○案内図に用いる言語表記は、可読性および全体のレイアウトバランスを考え、日本語と英語を表記する。

- ・案内図の文字の大きさは、高齢者・障害者配慮設計指針-視覚表示物-日本語の最小可読文字サイズ推定法（JIS S 0032）では、例えば50歳の方が普通の明るさで約50cmの距離から読む場合、文字（ゴシック体）の大きさは約3.5mm角以上、64歳の人なら4.5mm角以上が要求される。

本計画では、案内図で使用する最小文字高（和文）は4.5mm角以上とする。

・タイトル

ちょうふし とびたきゅう
調布市 飛田給
 Chōfu City Tobitakyū

・駅名

けいおうせん とびたきゅうえき
京王線 飛田給駅
 Keiō Line Tobitakyū Sta.

・番地名

とびたきゅう にちょうめ
飛田給2丁目
 Tobitakyū 2 chōme

・ランドマーク

味の素スタジアム
 Ajinomoto Stadium

・公共施設名

調布飛田給郵便局
 Chōfu Tobitakyū Post Office

・道路/路線名

甲州街道
 Kōshūkaidō

・バス停/至表示

朝日町
 Asahi chō

（縮尺：1/1 単位：mm）

- ・図中の文字にピクトグラムを併記する場合は、次のサイズを標準とする。

・ピクトグラム併記の例

 **飛田給駅前交番**
 Tobitakyū Sta. Police Box

（縮尺：1/1 単位：mm）